

5年生以上 課題文⑤

시간 여행

가끔, 아주 가끔  
책상 위에 엎드리고 싶을 때가 있지.

아무런 까닭 없이 맥이 풀릴 때  
아무도 아는 척하고 싶지 않을 때  
그냥 눈을 꼬옥 감아 버리고만 싶을 때

책상 위에 두 팔을 가지런히 포개고  
그 위에 뜨거운 이마를 얹고  
가만가만 숨을 고르노라면  
친구들이 왁자지껄 떠드는 소리는  
아득하게 멀어져 가고  
깜깜한 어둠은 점점 더 깊어지지.

날 그냥 내버려 두렴.

잠들려는 것이 아니야.  
어떤 꿈을 꾸려는 것이 아니야  
나만의 타임 머신을 타고  
어디 머나먼 곳을 잠깐 동안  
다녀오려는 것뿐이야.

그곳에서 나의 별을 찾으면  
그 별이 문득 환하게 빛나는 것처럼  
나도 다시 반짝 깨어날 거야.

時の旅

時々、本当にまれに  
机の上うつ伏せになりたい時があるだろう。

わけもなく氣力がなくなる時  
だれとも会いたくない時  
ただ目をじっとつむっておきたい時

机の上に両腕<sup>うで</sup>をそろえて重ね  
その上に熱いおでこをのせ  
静かに呼吸<sup>ととの</sup>を整<sup>ととの</sup>えていたら  
友だちが騒々<sup>そうぞう</sup>しく騒<sup>さわ</sup>ぐ声が  
遠ざかってゆき  
真<sup>ま</sup>っ暗<sup>やみ</sup>な闇はだんだん深まるだろう。

私をこのままに放っておいて。

眠りにつこうとしているのではない。  
ある夢を見ようとしているのではない  
私だけのタイムマシンに乗り  
どこか遠い場所に少しの間  
行って来ようとしているだけだ。

そこで私の星を見つけたら  
その星がキラッと明るく光り輝くように  
私も再びぱちりと目を覚ますだろう。